



Labonos (ラボノス) について Q&A

Q) 切削加工機・3Dプリンターとは何が違うのですか？

A) 切削加工機を使用するための専門知識は必要なく、誰でも簡単に切削加工が行えます。工具の選定や加工プログラムの作成など複雑な作業は Labonos にお任せ。作業者の技術力によるバラつきも無く、安定した品質を出力できます。3D プリンターと比較して積層痕の無い、高精度な加工が可能で、出力後の処理は必要ありません。3D プリンターの造形方式による材料制限もなく、最終製品と同じ材料を使用することで機能性や耐久性など、同程度の確認を行うことが可能です。

Q) 加工可能なワークサイズは？

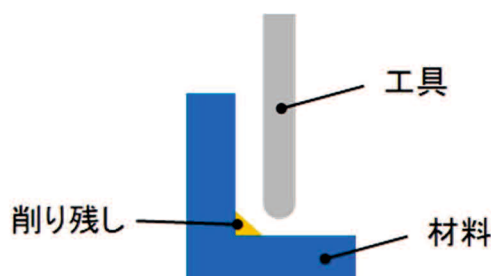
A) 機内に搭載可能なワークサイズとしては、200X255X200(WxDxH)が材料サイズの最大になります。そこから、種々の制限（サポート幅や枠サイズや重量など）が生じます。また、市場に流通している材料サイズによる入手性の制限もございます。

Q) ステンレスやチタンが加工できますか？

A) 金属は加工できません。樹脂専用の切削加工機になります。

Q) 角部のエッジはどこまで再現できますか？

A) 標準で使用している仕上げ工具が R0.5mm である為、エッジ部は R0.5mm 削り残ります。



Q) 加工依頼することは可能ですか？

A) 機械の製造・販売しているメーカーである為、加工請負は行っておりません。既に Labonos を納入しているユーザー様をご紹介できる可能性があります。ただし Labonos で実施する確約はできません。

Q) 樹脂型データの作成も Labonos で出来ますか？

A) できません。インポートした 3D モデルデータをそのまま切削加工で手にすることができる機械なので、樹脂型をやりたい場合は、射出成形品の形状ではなく、型形状のモデルデータが必要になります。

Q) 樹脂型の耐久性（ショット数）は？

A) PPS を素材とした樹脂型と低圧の卓上射出成形機で成形した場合、1000 ショット成形した実績がございます。（成形材料：PP、成形温度：190℃）成形後の型形状から 1000 ショット以上成形できる可能性もございます。

Q) 樹脂型を Labonos で製作するメリットは？

A) 切削加工機と比較した場合、通常必要となる図面作成や CAM 作業が自動化されますので、省人化に貢献します。3D プリンターと比較した場合、加工精度や使用できる素材から、より試作や少量生産に対する型として適応したものが製作できます。